

三重県立聾学校 キャリア教育マトリックス

領域	観点	小学部(低学年)
	重点課題	自ら学ぶための基礎力・関わりつながり合う力を身につける
「Ⅰ」 人間関係・社会形成能力	(他) 他者の個性を理解する力	<input type="checkbox"/> (1) 相手の思いにも気づいて理解しようとする。
	(チ) チームワーク・リーダーシップ	<input type="checkbox"/> (1) 友達と協力し、助け合うことができる。
	(マ) 基本的なマナー	<input type="checkbox"/> (1) 身近な人に正しく挨拶や応答する。
	(規) 規範意識	<input type="checkbox"/> (1) きまりを守って、遊んだり集団生活を過ごすことができる。
	(公) 公共心	<input type="checkbox"/> (1) 学校で共同で使用する物や場所を丁寧に扱う。
	(常) 社会人としての常識	<input type="checkbox"/> (1) 身近な公共施設等、社会を支えてくれている人の存在を認識する。
	(コ) コミュニケーションスキル ・日本語力	<input type="checkbox"/> (1) 学習したことを音声をつけて手話で表現する。 <input type="checkbox"/> (2) 動詞の活用、形容詞・形容動詞を学び、活用する。
「Ⅱ」 自己理解・自己管理能力	(責) 自己の役割の理解・責任感	<input type="checkbox"/> (1) 自分に割り当てられた仕事や役割の重要性を理解し、作業や準備や後片付けをしつかりする。
	(前) 前向きに考える力	<input type="checkbox"/> (1) 様々なことに挑戦し、粘り強く取り組む姿勢を育む。
	(学) 生涯学習力	<input type="checkbox"/> (1) 基礎学力を身につける。 <input type="checkbox"/> (2) 家庭学習に取り組む姿勢を身につける。
	(体) 体力・健康管理	<input type="checkbox"/> (1) 自転車や水泳など平衡感覚を伴う基本的な運動動作を習得する。
	(制) 自制心・ストレスマネジメント	<input type="checkbox"/> (1) 生活の中で、がまんして自分の気持ちを調整できる。
	(主) 主体的行動	<input type="checkbox"/> (1) 自分のことは、自分ですするという姿勢を身につける。
	(聴) 聴覚管理	<input type="checkbox"/> (1) 人工内耳・補聴器を正しく装用する。
「Ⅲ」 課題対応能力	(情) 情報の理解・選択・処理	<input type="checkbox"/> (1) 周囲の状況にそって行動する。
	(課) 課題発見力	<input type="checkbox"/> (1) 教科学習の中で、物事のきまりや性質を見出す。
	(案) 計画立案	<input type="checkbox"/> (1) 友達と行事を楽しく計画する。
	(行) 実行力	<input type="checkbox"/> (1) 計画した取組に意欲的に参画する。
	(評) 評価・改善	<input type="checkbox"/> (1) 失敗した理由がわかる。 <input type="checkbox"/> (2) 自分のがんばりを評価・反省する。
「Ⅳ」 キャリア能力アプランニング	(役) 役割把握・認識能力	<input type="checkbox"/> (1) クラスの係活動などを通じて、人の役に立つ喜びを知る。 <input type="checkbox"/> (2) 家族の役割に興味をもち、まねができる。
	(計) 計画実行能力	<input type="checkbox"/> (1) 計画や予定を立てて、取り組むことの大切さを知る。
	(探) 情報収集・探求能力	<input type="checkbox"/> (1) 身近で働く人々について、興味・関心をもち、本などで調べることができる。
	(職) 職業理解能力	<input type="checkbox"/> (1) 身近で働く人々の様子がわかり、興味・関心をもつ。
	(選) 選択能力	<input type="checkbox"/> (1) 自分の好きなもの、大切なものをもち、選択できる。

○キャリア教育マトリックスは、それぞれの発達段階の中で身につけておきたい能力や態度について、基礎的・汎用的能力の4つの能力領域ごとに書き出したものです。
○赤字は、「キャリア発達意識調べ」の結果、その発達段階の半数以上の幼児・児童・生徒にとって課題となっていると思われるものです。
○未到達の項目の中で、特に重点的に取り組むべき課題を設定し、日々の教育活動の中で(個別の指導計画に盛り込み)指導を計画的に進めていきます。